

浜松におけるブラジル人移住第 2 世代の発信活動—発信を支えるエージェントの機能—
The Roles of Agents Supporting Second Generation Migrants from Brazil in
Hamamatsu, in an Effort to Express Themselves

近藤大祐 (静岡文化芸術大学 大学院生)

Daisuke KONDO (Graduate Student, Shizuoka University of Art and Culture)

【キーワード】 ブラジル人移住第 2 世代、発信、モデル、エージェントの機能、浜松市

1. はじめに

1990 年の改定出入国管理及び難民認定法施行により、就労を目的とした日系人をはじめとする、いわゆるニューカマーの来日が急増した。今日では 200 万人を超える外国人が日本で生活している。彼らの定住志向は年々高まっており、日本での子どもの教育が肝要となる。しかしながら、学校からのドロップアウトや不就学、低い学業達成率等、依然として課題は山積している。

静岡県浜松市では、多文化共生の地域づくりが新たな局面を迎えている。欧州のインターカルチュラル・シティ政策の知見を参照した「浜松市多文化共生都市ビジョン」を 2013 年に策定する等、まちづくりに外国人の多様性を生かす流れにある。その流れの中で、外国籍の子どもとその保護者にモデルを示し、かつホスト社会の人々に気付きをもたらす発信活動を行うブラジル人移住第 2 世代の若者が地域社会に台頭しつつある。

発信に至るまでの自分と発信によってもたらされた影響について、浜松で発信する当事者 4 人にライフストーリーインタビューを行った。発信活動を行うブラジル人移住第 2 世代には、発信に至るまでに親世代である移住第 1 世代の持ち得なかった「情報」を獲得し、「時間」の捉え方に質的な転換が見られる。加えて、「アイデンティティ」は他者との関係を契機に葛藤、肯定、深化の過程を経ていることが分かった。外国人の子どもを取り巻く環境を知り、問題意識を抱き、当事者性を意識する。そして「場」でエージェントと出会い、発信に至るといふ段階を経ていると考えられる。本報告では第 2 世代の発信を支えるエージェントに着目し、その機能を考察することを目的とする。

2. 調査対象と方法

(公財)浜松国際交流協会(以下、HICE と表記する)職員 2 名、(特活)浜松 NPO ネットワークセンター(以下、N-Pocket と表記する)職員 1 名、静岡文化芸術大学(以下、SUAC と表記する)教員 1 名の計 4 名を対象として、調査を行った。HICE 職員および N-Pocket 職員にはインタビュー調査を行った。インタビュー内容は主に、発信する第 2 世代との協働の目的、彼らの発信がもたらす効果、第 2 世代との協働の際の自身の役割についてである。方法は、一人につき約 30 分～50 分の半構造化インタビューとなっている。インタビューは本人の了承を得て IC レコーダーにて録音し、文字起こしを行った。SUAC 教員への調査につ

いては、映像資料での語りや対象者が発表している既存の資料を用いた。

3. エージェントの機能

移住第2世代の発信を支えるエージェントの機能を3点に分類して検討する。

はじめに、仕組みづくりとして「第2世代と組織をつなぐ」働きをしている。協働する第2世代をリクルートするために、関連機関への声かけを行ったり、他所での講座等に足を運んだりし、事業と第2世代をつなげる。また、発信する機会(場)の確保をエージェントが行い、場と第2世代をつなげていく。さらには、事業の関係団体との連絡調整をエージェントが行う。その際には事業の趣旨や第2世代の思いがしっかり伝わるように、担当者に説明しておく場合もある。他方、関係する組織や外国人コミュニティに協働する第2世代の存在をアピールし、第2世代のエンパワーメントや、モデルの提示を行っている。

次に、人への働きかけとして「協働する第2世代のエンパワーメント」である。同じ境遇の人々が集まる場を作っており、気付きを当事者にもたらしている。加えて、自ら企画づくりができるようになるために、エージェントが主体となって企画立案や準備を進めるのではなく、エージェントは彼らの言葉を聴き、第2世代の主体性を尊重した企画作りを進める。そして、外国人コミュニティや関連団体に第2世代の若者をアピールし、協働する第2世代のエンパワーメントを行っている。

そして、舞台の設えとして「資金を工面する」役割である。当事者の考えた企画を実現させられるよう、事業資金の用意をしている。予算があらかじめ割り当てられている事業の中で企画を行う場合と、既存の事業枠組み外で事業を行う場合がある。既存の事業枠組み外で事業を行う場合は外部の助成金を用いている。

このように、協働する移住第2世代の思いを形にする環境整備ならびに、協働する第2世代に自信を持ってもらう働きかけが浜松市におけるエージェントの機能として挙げられる。

参考文献・資料

落合知子.2012.『外国人市民がもたらす異文化間リテラシー—NPO と学校、子どもたちの育ちゆく現場から』現代人文社.

小林芽里.2011.「多文化は豊かだ、というメッセージとともに—浜松の N-Pocket の実践から」『月刊社会教育』No.669,36-41.

静岡文化芸術大学 文化・芸術研究センター「多文化共生」
<http://www.suac.ac.jp/researchcenter/research/priority/diversity/> 2015年10月2日
最終アクセス

松岡真理恵.2011.「『協働の場』を通して形成される専門性—外国人集住地区でのコーディネート実践から」『シリーズ 多言語・多文化協働実践研究 14』no.14,54-67.